



会津アピオ組合だより

「脱炭素に向けて」 「脱炭素実施計画」まとまる

脱炭素実行委員会にて協議

近年、地球温暖化対策やエネルギー価格の高騰への対応が全国的な課題となる中、当組合においても、将来を見据えた持続可能な施設運営のあり方について検討を進めてまいりました。

その取り組みの一環として、2024年度には、アピオ全体としてどのように脱炭素化を進めていくべきかを整理した「脱炭素ランドデザイン提案書」を作成しました。この提案書では、エネルギー使用量の削減、再生可能エネルギーの導入、防災機能の強化などを柱とし、中長期的な視点で施設全体の方向性を示したものとなっています。

さらに2025年度においては、その提案書の内容を具体化するため、「会津アピオ脱炭素実行委員会」を組織し、太陽光発電設備の導入方法や補助制度の活用、将来的な運用コストなどについて継続的に協議を重ねてまいりました。

グラントデザイン策定当初は、太陽光発電設備について、設備事業者が設置・所有を行い、利用者側は発電した電力を購入する「PPA型」での導入を基本方針としていました。PPA型は、多額の初期投資を必要としないことから、導入時の負担を抑えられるメリットがあり、2025年10月までの補助金申請を目標として準備を進めてま

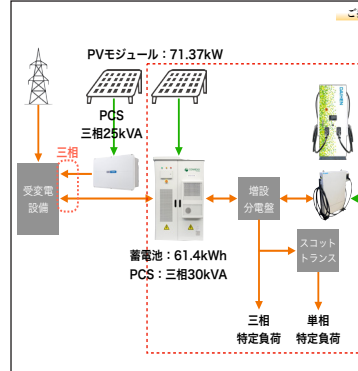
理事会で方向性を協議

脱炭素実行委員会での検討内容を踏まえ、理事会においても具体的な方向性について協議が行われました。

理事会では、自己所有型での導入について提案を行った(株)エナジアから、設備規模や発電想定量、導入費用、補助金活用後の収支見込みなど、詳細なシミュレーション結果の説明を受けました。

特に議論となったのは、PPA型と自己所有型を比較した場合の長期的な費用対効果です。単年度だけではなく、20年間という長期スパンで、設備導入による現金流出額、電力使用量の削減効果、将来的な利得額などを比較しながら、入念な検討が行われました。

また、単なる経済性だけではなく、将来的な電気料金の変動リスクへの対応、施設としての安定的な電力確保、地域における環境配慮型施設としての役割などについても意見交換が行われました。



理事からは、「長期的な視点で考えることが重要である」「災害時の対応力強化も視野に入れるべき」「脱炭素への取り組みを地域全体へ発信できる施設にしていきたい」といった意見も出され、多角的な視点から協議が重ねられました。

理事会での協議の結果、長期的な収支面や運用面、さらには防災面も含めて総合的に判断した結果、当組合としては「自己所有型」による太陽光発電設備の導入を進めることになりました。

自己所有型は、初期投資が必要となる一方で、長期的には電力コスト削減効果をより大きく見込めることや、設備を自ら管理・運用できることが大きな特徴です。また、補助制度を活用することで、導入時の負担軽減も図れる見込みとなっています。

さらに今回の計画では、平時の省エネルギー化だけではなく、災害時の事業継続や地域貢献も重要な目的の一つとして位置付けています。

近年は、地震や豪雨などの自然災害が全国各地で発生しており、停電が長期継続する事例も見られています。そのため、アピオスペースへの電力供給が停止した場合でも、必要最低限の電力を確保できるよう、蓄電池設備についても併せて導入する方向となりました。

また、電気自動車(EV)などに蓄えられた電力を建物へ供

当組合にとって最もメリットの出る方法は?自己所有型で...災害時にも対応できるように...

給することができる「V2X」システムも導入する予定です。これにより、災害時にはEVを非常用電源として活用することが可能となり、避難者支援や施設機能維持への活用が期待されています。

V2Xは、「Vehicle to X」の略称であり、電気自動車に蓄えた電力を建物や設備、インフラなどへ供給し、相互に電力をやり取りする仕組みです。今後、再生可能エネルギーの普及やEVの増加に伴い、注目されている技術の一つでもあります。

今回の取り組みは、単なる設備更新ではなく、環境対策と防災対策を一体的に進める新たな施設整備として位置付けられています。

2026年度中の設置を予定

今回計画している太陽光発電設備、蓄電池設備、V2Xシステムについては、2026年度中の設置完了を予定しており、今後詳細な設計や補助金申請手続きなどを順次進めてまいります。

設置後は、施設全体の電力使用量削減やCO2排出量削減を図るとともに、災害時における非常用電源としての活用も期待されています。また、再生可能エネルギーを活用した施設として、地域における脱炭素化推進のモデル的な役割を果たしていくことも目指しています。

当組合では、今後も持続可能な施設運営と地域社会への貢献を両立させながら、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

組合BCP策定の足掛かりに

**連携事業継続力強化計画を策定
認定は2026年6月頃を予定**

当組合では、2025年度事業計画にも掲げていた「連携事業継続力強化計画(以下:連携ジギョケイ)」の策定に取り組みました。

本計画は、独立行政法人中小企業基盤整備機構および福島県中小企業団体中央会会津事務所の支援を受けながら進めてきたものです。

近年、全国各地で地震や豪雨災害が相次いでおり、企業活動においても「災害への備え」の重要性がこれまで以上に高まっています。特に東日本大震災を経験した私たちにとって、事業停止が地域経済や雇用に与える影響の大きさは決して他人事ではありません。

災害発生時には、企業単独での対応には限界もあります。そのため、会津アピオ団地内の企業同士が互いに助け合い、情報を共有しながら早期復旧を目指していく「連携」が必要となります。

今回の連携ジギョケイは、こうした課題を踏まえ、有事の際に団地内企業が協力し合いながら事業継続を図る体制づくりを目的として策定したものです。企業同士の支え合いによって、各社の早期復旧と事業継続、さらには将来的な事業成長へとつながっていく取り組みとなります。

**中小企業にはさまざまなメリットも
賛同企業は32社**

今回策定した連携ジギョケイが認定されることで、賛同企業にはさまざまなメリットが期待されています(中小企業に限る)。具体的には、「ものづくり補助金」における加算措置をはじめ、「中小企業防災・減災投資促進税制」による税制優遇、被災時の「小規模事業者支援推進事業費補助金」や「なりわい再建補助金」などの優遇措置、さらには損害保険料の割引などが挙げられます。

また、大企業・中小企業を問わず、認定を受けることで、「一定レベルの災害対策を講じている企業」として社会的信頼性の向上にもつながり、企業価値向上の面でも大きな効果が期待されています。

さらに、災害対策に取り組む企業同士が日頃から顔の見える関係を築くことで、有事の際の迅速な連携にもつながっていくことが期待されています。

今回、本計画に賛同いただいた組合員企業は32社となりました。賛同企業は次の通りです。(順不同・敬称略)

- 福島ミドリ安全(株)、山本商事(株)、(有)田中茂風呂ショップ、福島リコピー(株)、作田電機(株)、福島県南酒販(株)、(株)小野屋漆器店、(株)二丸屋山口商店、(株)山新商店、東開クレテック(株)、岡田電気産業(株)、(株)西沢書店、(株)サトー商

**災害対策本部を設置
情報集約と連携対応を強化**

今回の連携ジギョケイでは、主に地震災害を想定した体制づくりを進めました。

平時には企画委員会を中心に情報収集や情報共有を行い、災害時に備えます。そして、震度5強以上の地震が発生した場合には「災害対策本部」を立ち上げ、理事長を本部長、副理事長および企画委員長を副本部長とする体制を構築します。

災害対策本部は組合事務局内に設置し、被害状況や周辺状況の情報集約、各企業への情報共有などを行いながら、指揮命令体制を整備します。

また、連携企業の担当者を通じて、各社の被災状況やライフライン、道路状況などの情報を迅速に集約し、その内容を連携企業へ共有。収集された情報をもとに必要な支援や連携対応を行い、早期の事業再開と事業継続につなげていくこととしています。

災害時には、正確な情報をいかに早く共有できるかが重要と

なりません。今回の取り組みでは、「孤立しない」「一社だけで抱え込まない」ことも大きな目的の一つとなっています。

**連携ジギョケイを具体化
将来的には組合BCPへ**

今年度以降は、今回策定した連携ジギョケイを、さらに実効性・有効性の高いものへと発展させていく予定です。

具体的には、災害時の行動フローや情報共有方法、支援体制などについて内容をさらに具体化し、より実践的な計画へとブラッシュアップしていきます。

また、訓練や情報共有の機会を重ねながら、「計画を作った終わり」ではなく、実際に機能する体制づくりを進めていく考えです。

そして将来的には、今回の連携ジギョケイを基盤として、当組合全体のBCP(事業継続計画)策定へとつなげていく計画です。

賛同企業を募集しています

災害などの有事の際には、団地内企業が一致団結し、互いに支え合うことが何より重要となります。

今回の取り組みは、「自社だけを守る」のではなく、「地域全体で支え合う」という考え方もと進められています。

当組合では、アピオ内企業の早期復旧と事業継続を実現するため、今後多くの企業の皆様にも本取り組みへご賛同・ご協力いただけるよう呼びかけてまいります。

APIOBIZ PARK フェスタ season 2

昨年のseason 1に引き続き開催！
「見て・触れて・体験する」フェスタがさらに進化

2025年9月7日、アピオスペースを会場に「APIOBIZ PARK フェスタ season 2」が盛大に開催されました。

会場となったアピオスペースには、最先端技術の体験型展示をはじめ、家族で楽しめるアトラクション、充実したグルメコーナーなど、多彩な企画が用意され、朝から多くの来場者で賑わいました。

小さな子どもを連れた家族連れや地域の方々、企業関係者など幅広い世代の5,500人が来場し、笑顔と活気に包まれた一日となりました。

当組合のフェスタのテーマの一つが、「未来を体験する」ということです。普段なかなか触れることのできない最先端技術や、環境配慮型のエネルギー活用を身近に感じてもらうことで、楽しみながら未来について考える機会となりました。

大阪・関西万博にも出展
（株）人機一体のロボット技術に
来場者くぎ付け

今回のフェスタ最大の注目企画となったのが、2025年開催の大阪・関西万博にも出展し

た（株）人機一体によるロボット技術の展示・実演です。

（株）人機一体は、「人間の能力を拡張するロボット技術」をテーマに研究・開発を進めている企業であり、災害現場や危険区域、高所作業、重量物作業など、人の力だけでは困難な現場において、安全かつ効率的に作業を行うロボットの開発を行っています。

会場では、実際にロボットアームを操作するデモンストラクションが行われ、来場者はその迫力ある動きに見入っていました。

ロボットは、人の腕や手の動きに合わせて滑らかに動作し、重量物を持ち上げたり、細かい操作を行ったりする様子を披露。まるで人間の身体の一部のように動くロボットに、会場からは驚きの声や感嘆の拍手が上がりました。

特に印象的だったのは、「人間の動作を機械で再現することの難しさ」です。

私たちは日常生活の中で、何気なく手を伸ばして物を持ち、離し、運び、投げるといった動作を行っています。しかし、その一つひとつの動きには、力加減や指先の感覚、身体全体のバランス調整など、非常に高度で繊細な制御が必要となっています。

ロボット技術の展示を通じ

て、「人間にとって当たり前の動作」が、実は驚くほど複雑で精密なものであることを改めて実感させられました。

ロボットの性能に感動すると同時に、人間の身体能力の凄さ、そしてそれを支える神経や感覚の素晴らしさを再認識する機会となりました。

また、会場にはロボットに興味津々な子どもたちの姿も多く見られました。真剣な表情で実演を見つめる姿や、「どうやって動いているの?」「重いものも持てるの?」と質問をする様子も見られ、未来の技術者や研究者の芽生えを感じさせる場面もありました。

最先端技術を「見るだけ」ではなく、「体験できる」展示は、APIOBIZ PARK フェスタならではの大きな魅力となりました。



ケータリングカーも大集合
会場を彩った「食」の楽しみ

今回のフェスタでは、グルメコーナーも大幅に充実しました。

会場内にはさまざまなジャンルのケータリングカーが並び、来場者を楽しませました。香ばしい匂いが漂う食事系メニューから、スイーツ、冷たいドリンクまで幅広いメニューが揃い、昼時には多くの人で賑わいました。

家族や友人同士で食事を楽しむ姿も多く見られ、会場全体がまるでお祭りのような温かな雰囲気に包まれていました。

イベントでは、最先端技術や環境への取り組みだけではなく、「地域の人が気軽に集い、交流できる空間づくり」も大切なテーマとなっています。

来場者からは、「子どもと一緒に一日楽しめた」「食べ歩きもできて楽しかった」「来年もぜひ開催してほしい」といった声も聞かれ、大変好評でした。

バッテリーカー初登場！
子どもたちの笑顔あふれる
会場に

今回初登場となった「バッテリーカー」も、子どもたちに大人気でした。

普段はミニSLが走行しているエリアを、色鮮やかなバッテリーカーが元気いっぱいに行き。会場には子どもたちの元気な歓声が響いていました。

順番待ちの列ができるほどの人気となり、保護者が写真を撮影する姿も数多く見られました。

普段なかなか体験できない乗り物に、子どもたちは目を輝かせながら何度も挑戦しており、イベントの思い出づくりの一つとなったようです。

EVの電気で「フワフワ」運営
脱炭素先行地域ならではの
取り組み

当組合が「脱炭素先行地域」に選定されていることから、今回のフェスタでは環境に配慮したエネルギー活用も積極的に行われました。

子どもたちに大人気だった大型エア遊具「フワフワ」では、電気自動車（EV）から供給された電力を活用して運営を実施しました。

これは、再生可能エネルギーやEVの活用を、来場者により身近に感じてもらうことを目的として行われたものです。

子どもたちは元気いっぱい飛び跳ねて遊び、その周囲では保護者が笑顔で見守る姿が見られました。

一方で、「この電気はEVから来ているんだよ」という説明に驚く来場者も多く、楽しみながら脱炭素について考える機会となりました。

近年、脱炭素という言葉が耳にする機会が増えていますが、実際に「見て」「触れて」「体験する」ことで、より身近なもの

のとして感じてもらうことができたのではないでしょうか。今回の取り組みは、「楽しさ」と「環境配慮」を両立した、まさにAPIOBIZPARKフェスタならではの特色ある企画となりました。



昔の店でなじみの「型抜き」子どもから大人まで大人気

今回のAPIOBIZPARKフェスタでは、青年部会が運営した「型抜き」コーナーも大きな賑わいを見せました。「型抜き」は、昔ながらのお祭りの出店などで親しまれてきた遊びで、薄い板状のお菓子に描かれた型を、針などを使って割らないよう丁寧にくり抜いていくものです。単純そうに見えて実は非常に繊細な作業であり、集中力と根気が求められる遊びとして知られています。近年では、実際に目にする機会も少なくなってきましたが、

今回のフェスタではその「懐かしさ」が来場者の心をつかみました。

大人世代にとっては、「子ども」の頃にお祭りで夢中になった「記憶」がよみがえる懐かしい遊び。一方、初めて体験する子どもたちにとっては、逆に新鮮で興味深い遊びとして映ったようです。

まさに、「一周回って新しい」魅力を持ったコーナーとなり、会場では子どもから大人まで真剣な表情で型抜きに挑戦する姿が見られました。

「あと少しだったのに割れてしまった!」「昔より難しいなあ」など、笑い声や歓声もあちこちで聞かれ、世代を超えて楽しめる企画となりました。

青年部会スタッフも来場者との交流を楽しみながら運営にあたり、会場の温かな雰囲気づくりに大きく貢献していました。

AED体験「もしも」に備える貴重な学びの場

また、ALSOK福島㈱の協力による「AED体験コーナー」も実施され、多くの来場者が足を止めていました。

AED(自動体外式除細動器)は、突然心停止が起きた際に使用される救命機器ですが、「名前を知っていても実際には使ったことがない」という方も少なくありません。

今回の体験コーナーでは、実際の訓練用機器を使いながら、AEDの使用方法や心肺蘇生の

流れについて分かりやすく説明が行われました。

参加者はスタッフの説明を受けながら、胸骨圧迫の方法やAEDパッドの装着手順などを実際に体験。「思ったより力が必要なんですね」「いざという時に少し自信が持てた」といった声も聞かれました。

特に小さな子どもを連れた保護者や高齢者の方々は真剣な表情で説明に耳を傾けており、「もしもの時」に備える大切さを改めて感じる機会となったようです。

救命処置は、救急車が到着するまでの数分間の対応が命を左右すると言われています。今回のAED体験は、楽しむだけではなく、「命を守る知識」に触れる貴重な場にもなりました。

来場者にとっては、いざという時に役立つ実践的な学びとなり、安全・安心について考える有意義な体験となりました。

地域と未来をつなぐイベントへ

APIOBIZPARKフェスタは、単なる地域イベントではなく、企業・技術・地域・人をつなぎ、新しい価値を生み出していく交流の場として、その役割を広がっています。

会場には一日を通して多くの笑顔があふれ、子どもから大人まで、それぞれにとって思い出深い時間となりました。

今後アピオでは、地域に開かれたイベントを通じて、人と人との交流を深めながら、新た

な可能性を発信してまいります。そして、安全安心な街としての地域活性化と未来づくりに向けた取り組みを、さらに進めてまいります。

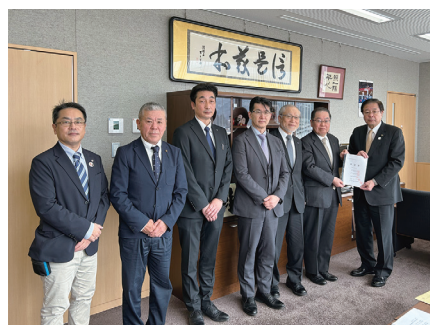


アピオのよりよい将来のために

会津若松市へ要望書を提出

2026年3月9日(月)、昨年に引き続き当組合、会津若松トラックセンター(協)、会津若松市高野地区・町北地区、当団地内防犯連絡協議会での連名で要望書を提出いたしました。

はじめとして、団地内道路の路面清掃や全国で問題となっている埋設されている上下水道管の調査・点検、アピオに求められる人がわかりやすくするための交差点名の変更など団地内環境整備や安全確保に関わる要望をしております。



充実の研修メニュー

〓 昨年に引き続き、次世代経営幹部のための中小企業経営塾を開催

当組合では昨年に引き続き、「次世代経営幹部のための中小企業経営塾」を開催しました。本講座は、次世代を担う経営者・経営幹部の育成を目的としたもので、昨年度の内容をベースに、より実践性と応用力を高めた「進化版」として実施されました。

講師には福島大学の奥本教授をお迎えし、理論と実務をつなぐ分かりやすい講義が展開されました。

さらに、(株)ホリプロのボイストレーナーである丸山あい氏にもご指導いただき、経営者としての伝え方や表現力について実践的なアドバイスを受けました。



奥本教授の講義は、アカデミックな理論に基づきながらも、現場の経営に直結する内容が多く、参加者からは「すぐに自社で活かせる内容だった」との声も聞かれました。

経営判断力の強化だけでなく、組織を牽引するリーダーとしての視点や姿勢についても学ぶ機会となり、次世代経営人材の育成に資する充実した研修となりました。

また今年度は、経営塾に加え、組織づくりや人材定着に関する多角的なセミナーも実施されました。

〓 従業員定着率向上セミナー、会津若松商工会議所とのコラボ開催

会津若松商工会議所との連携により実施された「従業員定着率向上セミナー」では、魅力ある職場づくりや人材育成のポイントについて学びました。

特に、早期離職を防ぎ、組織の安定と持続的成長を実現するための具体的な取り組みについて、実際の事例を交えながら解説が行われました。

参加者からは、「自社の離職対策を見直すきっかけになった」「現場にすぐ活かせる内容だった」といった声が寄せられました。

〓 心理的安全性の高い組織づくり、中小企業大学校サテライトセミナー

中小企業大学校のサテライトゼミとして実施された「心理的安全性の高い組織づくり」セミナーでは、「社員がいきいきと働ける職場環境の構築」をテーマに学びを深めました。

講義では、「心理的に不安な状態」を正しく理解し、自身の不安への向き合い方を学ぶとともに、部下や社員が安心して行動できる職場環境をどのように整えるかについて、具体的な手法が紹介されました。「安心して発言できる職場」

「失敗を恐れず挑戦できる環境づくり」の重要性が強調され、参加者は真剣な表情で耳を傾けていました。

〓 職場のコミュニケーション力アップ講座

さらに、「職場のコミュニケーション力アップ講座」では、以下の4つのテーマで実践的な学びが行われました。

- 交流分析入門講座
- アサーティブ・コミュニケーション入門講座
- アンガーマネジメント・ハラメント防止講座
- アンガーマネジメント・叱り方入門講座

〓 今後に向けて

当組合では今後も、次世代経営人材の育成と、働きやすい組織づくりの両面から支援を継続し、組合員企業の持続的な成長と発展に寄与してまいります。

新加入企業紹介

● 株式会社玉川製作所 ●



株式会社玉川製作所は、三菱マテリアル株式会社の子会社として、資本金1,300万円(三菱マテリアル株式会社100%出資)、昭和46年(1971年)10月1日の創立以来、半世紀以上にわたり事業を展開しています。

金属材料加工業として、銅合金素材のスリット、梱包、運搬関係を行い、合わせて、製作所内の作業服洗濯、施設清掃など三菱マテリアル若松製作所関連付帯業務等、幅広く対応し、現場環境や働く人を支える業務にも取り組んでいます。また、アピオ団地内施設は、木製パレットの倉庫として使用しています。

私たちの目指す姿は「オール玉製、安全最優先、最少人員で最大の成果を実現する」です。既存の枠(部、課、係、建屋等)を超えた、応援体制により、社員一人ひとりが責任と誇りを持ち、地域とともに歩む企業であり続けます。

● 株式会社エスアンドシー ●



昨年11月に加入いたしました、郡山市の株式会社エスアンドシーです。当社は「サービス&貢献」を理念に掲げ、経営相談や不動産、ITなど、多角的な実務経験を活かした地域支援に取り組んでおります。

現在は、事業承継や経営の立て直しなど、地元の経営者様が直面する課題に対し、共に歩むパートナーとしてお力添えをさせていただいております。

組合の皆様とのご縁を大切に、少しでも地域に貢献できるよう誠実に努めてまいります。何かお役に立てることがあれば幸いです。これから、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

収益力向上に向けて

当組合では、組合員企業の収益力向上および販路拡大に役立てていただくことを目的として、マーケティング力強化に関するセミナーを開催しました。

近年、商品やサービスの価値そのものだけでなく、「どのよう伝えるか」「どう選ばれるか」が売上に大きく影響する時代となっており、デジタル技術の活用と消費者心理の理解が重要性を増しています。

そうした背景を踏まえ、今回は2つのテーマで実践的な学びの場を設けました。

「売れるのには理由がある」行動経済学×DXセミナー

本セミナーでは、人間の意思決定の仕組みを行動経済学の観点から学び、それをデジタル施策にどのように活用できるかをテーマに実施しました。

講義では、代表的な理論として「ザイオンス効果(単純接触効果)」「アンカリング効果」「ナッジ理論」などを取り上げ、人は必ずしも合理的に判断するのではなく、心理的な影響を受けながら意思決定を行っている



ことを解説しました。

その上で、こうした心理的特性をデジタルマーケティングや情報発信にどのように応用するかについて、具体的な事例を交えながら学びました。

例えば、繰り返し接触することで親近感を高める情報発信の工夫や、選択肢の見せ方による購買行動への影響など、すぐに実務へ活かせる内容となりました。

参加者からは「感覚ではなく理論で理解できた」「自社のPR方法を見直すきっかけになった」といった声も寄せられ、実践的な学びの場となりました。

「未来のお客様をつかまそう！」Z世代マーケティング実践講座

もう一つのセミナーでは、今後の消費の中心となるZ世代をテーマに、効果的なマーケティング手法について学びました。

Z世代はデジタルネイティブ世代とも呼ばれ、スマートフォンやSNSを日常的に活用しながら情報収集・購買行動を行う特徴があります。そのため、従来の広告手法だけではなく、SNSを中心とした情報発信の重要性が高まっています。

講座では、Z世代の価値観や行動傾向を踏まえた上で、どのように企業情報を届けていくかについて解説が行われました。具体的には、「リアル動画」

や「インフルエンサーの活用」、「Instagram 広告」、「Google ビジネスプロフィール」など、デジタルツールを活用した情報発信の手法について実践的に学びました。

特に、短時間で印象を残す動画コンテンツの重要性や、共感を生むストーリー性のある情報発信の必要性などが強調され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

参加企業からは「若い世代へのアプローチ方法が具体的に理解できた」「これからの広告戦略を考える上で非常に参考になった」といった声が聞かれました。

今後に向けて

当組合では今後も、時代の変化に対応した教育研修を継続し、組合員企業の収益力向上と競争力強化につながる取り組みを進めてまいります。



ゴルフ愛好会「ゴルフコンペ」

当組合では、団地内企業にお勧めの方を対象に、ゴルフを通じた交流と親睦を目的としたゴルフコンペを開催しております。初心者から上級者まで、ゴルフに興味のある方であればごなたでも気軽に参加できる場としており、世代や企業の垣根を越えた交流の機会となっております。

競技としての楽しさはもちろんのこと、日頃なかなか接点のない企業間のコミュニケーションの場としても定着しており、回を重ねるごとに参加者同士のつながりも広がっています。

ボナリ高原ゴルフクラブ

2025年7月2日(水)、晴天に恵まれる中で開催されたゴルフコンペには22名が参加しました。

会場となったのは、戦略性と景観の美しさで知られる名門コース「ボナリ高原ゴルフクラブ」。緑豊かなコースコンディションの中、参加者はそれぞれの技量を発揮しながらプレーを楽しみました。

白熱した競技の結果、見事優勝に輝いたのは(株)サトー商会の小野忠治さんでした。安定したプレー運びで、堂々の優勝となりました。

「私は上手じゃないから」と心配されている方!私はいつもの120前後です。それでも楽しく参加しています。是非是非、皆様のご参加、お待ちしております!



本洋クラブ白河リゾート

続いて、2025年10月21日(火)には「太平洋クラブ白河リゾート」にてコンペを開催しました。この日も秋晴れに恵まれ、絶好のゴルフ日和となりました。

同コースでの開催は久しぶりとなり、自然豊かなコースコンディションと整備されたコースコンディションの中、21名の参加者が熱戦を繰り広げました。

経験者にとっては戦略性が試されるコースであり、各ホールで白熱したプレーが展開される中、見事優勝を果たしたのは元松浦商事の渡部和彦さんでした。安定したショットでした。



たくさんのご参加をお待ちしております

当組合のゴルフコンペは、冒頭でもご案内のとおり、初心者からベテランまで、ごなたでもご参加いただける交流の場です。スポーツを通じてリフレッシュしながら、企業の垣根を越えた交流ができることも大きな魅力の一つとなっております。

今後より多くの皆様にご参加いただき、親睦と交流の輪がさらに広がっていくことを期待しております。初めての方も大歓迎ですので、ぜひ気軽ににご参加ください。お待ちしております。

今年も活用!! 働き方改革推進支援助成金

外部専門家による巡回指導
各社の課題に応じた働き方
改革を支援

当組合では今年度も、厚生労働省の「働き方改革推進支援助成金」を活用し、組合員企業の働きやすい職場環境づくりに向けた取り組みを進めました。

近年、人手不足や働き方の多様化への対応が求められる中、企業においては、単に人材を確保するだけでなく、「働き続けたい」と思える職場づくりがますます重要となっています。

こうした状況を踏まえ、今年度は外部専門家を招き、働き方改革の定着や多様な人材の活躍推進に向けた巡回指導を実施しました。

巡回指導を希望した企業は4社で、各社2回、合計8回の訪問指導が行われました。

指導では、各企業の実情や課題に応じながら、労務管理の見直しや業務効率化、柔軟な働き方の導入、人材育成の進め方などについて具体的な助言が行われました。

また、「人材の定着率向上」「若手社員が働きやすい環境づくり」「業務の属人化防止」など、それぞれの企業が抱える課題に対して、実践的なアドバイスを提供され、参加企業からは「自社の課題整理につながった」「新

たな視点を得ることができた」といった声も聞かれました。

働き方改革は、一度取り組みが終わりというものではなく、社会情勢や働く人々の価値観の変化に合わせて、継続的に見直ししていくことが求められています。当組合では、今後も組合員企業の職場環境改善や人材確保につながる取り組みを進めてまいります。

福島民報・福島民友に掲載 組合共同求人広告を実施

組合員企業が抱える慢性的な人材不足への対応策として、今年度も会津地域を対象とした「組合共同求人広告」を実施しました。

近年は、多くの業種で人材確保が大きな課題となっており、特に地方においては求人活動の強化が重要となっています。そのため当組合では、単独企業では難しい広域的な情報発信を、組合として共同で行うことで、求職者との接点拡大を図っています。

共同求人広告は福島民報・福島民友に掲載され、「少しでも多くの求職者にアピールしたい」「地域企業の魅力を幅広く知ってもらいたい」という強い思いから、昨年度の36,000部発行から大幅に規模を拡大。

今年度は56,000部を発行し、より多くの求職者へ情報を届ける体制を整えました。

より効率的な採用のために

また、共同求人広告の効果をもさらに高めるため、「人材採用セミナー」も開催しました。

セミナーでは、求職者に「選ばれる求人」にするためのポイントとして、求人広告で企業の魅力を効果的に伝える方法や、応募につながりやすい文章作成のコツ、求職者目線での情報発信の重要性などについて学びました。

参加者からは、「求人票の見せ方を見直すきっかけになった」「自社の魅力を改めて整理することができた」といった感想も寄せられ、人材確保に向けた実践的な学びの場となりました。

当組合では今後も、組合員企業の人材確保や職場環境改善に向けた支援を継続し、地域企業の持続的な発展につながる取り組みを進めてまいります。



毎年恒例! アピオクリスマスパーティー

組合員企業等の従業員さんの福利用厚生と従業員さん同士、またそのご家族も含めた親睦を図る会として開催しております。「会津アピオクリスマスパーティー」2025年度は雪の降る12月4日に恒例となった会津写遊庭さんで開催しました。

参加者は来賓の方を含めた大人が58名、子供が29名、合計87名と多くの方々にご参加いただきました。次々と運ばれてくる美味しい料理とデザート、種類豊富なドリンクを参加者一同楽しみました。アトラクションはこちらも恒例のくじ引き大会!任天堂のSwitchをはじめ、豪華家電製品、美味し

投げて笑ってストライク!! アピオボウリング大会

2026年3月7日に第26回目となる会津アピオボウリング大会を開催いたしました。

当組合から40名、トラックセンター(協)より20名、合計60名の参加での熱戦となりました。ボウリング大会終了後はルネッサンス中の島さんで表彰式懇親会を開催し、団体戦と個人戦の表彰を行いました。

団体優勝は中川智弥さん(株共立土建)、渡辺隆弘さん(若松ボデー(株))、大場直子さん(会津アピオ郵便局)の三名。

個人優勝は木村里美さん(株ユアテック)、準優勝は小檜山和徳さん(福島リコピー(株))、三位は金田裕次朗さん(作田電機(株))。

皆さんおめでとうございます! 2026年度も開催予定です。初参加やボウリングに自信の無い方も大歓迎! 皆さん1年に1回、この日しか投げない方がほとんどです(笑) また参加したこと

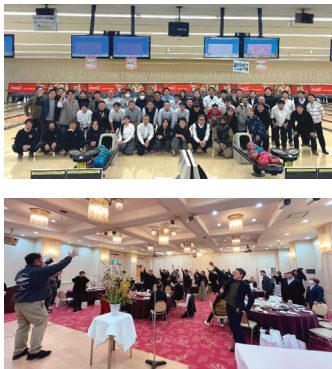
いお米などの景品を狙ってワクワクドキドキがいっぱいの会場内は終始大いに盛り上がりました。賞品をご協賛いただきました組合員企業の皆様、誠にありがとうございました。来年も子供たちの笑顔のための豪華な景品、お待ちしております!



い方も一緒にゆるく楽しく投げましょう!

たくさんのご協力、ご協賛
ありがとうございました

このボウリング大会の賞品は組合員企業の皆様からのご協賛で成り立っております。今回は20の企業・団体様からご協力をいただきました。ご協力誠にありがとうございました。引き続き皆様からのご協力をお願いいたします。



青年部会視察研修 (株まちの開発舎・高崎卸商社街協同組合(ビエント高崎)視察)

青年部会では、2026年2月13日(金)14日(土)の二日間、企業視察を行ってまいりました。

株まちの開発舎

群馬県前橋市にて2021年に「事業企画」及び「管理運営」を行い、「舎」人の住む建築、暮らしの場所を開発し、まちのにぎわいを創出することを目的として創業された企業です。

実際に案内された前橋市の街中を歩いてみると、昔ながらのレストランの近くにスタイリッシュなコーヒーションや本屋さんがあったり、アーケードの中にいきなり無印良品があっ

たりと、新旧がうまく入り交ざっている街の印象を受けました。商店街の店頭の入口には無人で本を貸出している場所も見られ、アートの街として再生を図っているからこそ斬新な取り組みにも驚きました。

「地域や商店街の方、特に高齢の方達の理解があるので若い世代の方達ものびのびと活躍する場を広げている」という言葉を受けたのがとても印象的でした。新しい取り組みは何かと難しいことが多いですが、双方の理解や協力のもとに成り立っている部分も多くあると感じました。

高崎卸商社街協同組合(ビエント高崎)

組合員96社、賛助会員68社からなる、卸売・小売・飲食・教育施設など、多様な業種・機能が集積した協同組合で1963年設立の日本第1号の卸団地です。

館内にあるイベントホールのビックキューブ(約2,000㎡)はアピオスペース展示ホールの3倍程度の大きさで、天井高も10mとかなり広大なスペースとなっていました。映画の撮影やアーティストのPV撮影としても使用されており、大きな収益源となっているとのこと



した。館内見学の後は青年研究会事務局の皆様より高崎卸商社街協同組合の取り組みについてご説明いただき、主に会館運営や販売促進事業、福利厚生事業、青年研究会の活動状況について



の活発な意見交換を行いました。収益を最大化する様々な取り組みや持続可能な組合運営体制の構築は私たちも見習うべきところが多々ありました。その他、アサヒ飲料群馬工場を視察してまいりました。

組合代表者変更(敬称略)

企業名	変更前	変更後	変更月
第一モーター株式会社	佐藤修朗	佐藤藍子	2025年4月
株式会社ユアテック	太田良治	小林郁見	2025年4月
東北緑化環境保全株式会社	千釜章	山形安生	2025年4月
株式会社スズキ自販福島	佐野良成	大津信浩	2025年4月
株式会社新潟フジカラー	村山利家	藤井英之	2025年5月
株式会社ヨシケイ福島	矢吹武治	矢吹淳	2025年6月
東京電力ホールディングス株式会社(会津若松補償相談センター)	柴田知明	柴田幸一郎	2025年7月
株式会社西沢書店	西猛	西香織	2025年11月

編集後記

2025年度は、これまで以上に「変化のスピード」を実感する一年となりました。世界に目を向ければ国際情勢は依然として不安定さを抱え、経済やエネルギーの流れも一つの出来事で大きく揺れる時代です。国内においても、政治・経済の転換点を迎える中で、「これまで通り」が通用しない場面が確実に増えてきました。不確実性が続く中で、正解のない課題にどう向き合うかが、企業にも地域にも問われ続けています。そんな中で、私の心に残るの

は「挑戦し続ける姿」です。大相撲のウクライナ出身でレスリング選手から角界へ転身した若手力士の安青錦。

安青錦が土俵の上で見せる粘り強さとひたむきな取り組みが、多くの人に勇気を与えました。体格や経験で劣る場面があっても、一瞬の集中力と最後まで諦めない姿勢で勝負に食らいついていく姿は、まさに勝負の世界に生きる「覚悟」そのものです。

厳しい時代と言われるからこそ必要なのは「覚悟」と「柔軟さ」なのかもしれません。変化を恐れるのではなく、変化の中にチャンスを見つけていく力。

それは大きな企業だけでなく、我々地域の中小企業一社一社に求められている姿勢なのです。今後も当組合は、時代の変化を受け止めながらも、挑戦する姿勢を忘れず、組合員企業とともに前へ進んでまいります。

結びに、各事業へご理解とご協力をいただきました組合員企業の皆様にご心より御礼申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。といたします。

